

III 参考資料

- ◆ 防災教育に関する情報のページ
- ◆ EARTH 訓練・研修会プログラム体系図
- ◆ EARTH 訓練・研修会活動事例

防災教育に関する情報のページ

防災教育に生かせるホームページ

- ・ 震災・学校支援チーム（EARTH）の活動
<http://www.hyogo-c.ed.jp/~kikaku-bo/EARTHHP/index.html>
- ・ EARTH ハンドブック
<http://www.hyogo-c.ed.jp/~kikaku-bo/EARTHhandbook/>
- ・ 兵庫県 まちづくり・防災（県内のハザードマップ等）
http://web.pref.hyogo.lg.jp/town/cate2_205.html
- ・ 兵庫県教育委員会（兵庫の防災教育）
<http://www.hyogo-c.ed.jp/~somu-bo/index.html>
- ・ 神戸市震災資料室（阪神・淡路大震災関連情報）
<http://www.city.kobe.jp/cityoffice/15/020/quake/keyword/k/k-59.html>
- ・ 内閣府防災担当(防災白書、防災に関するデータ)
<http://bousai.go.jp>
- ・ 文部科学省（教育情報）
<http://www.mext.go.jp/>
- ・ 総務省消防庁防災課（国内の最新災害情報）
<http://www.fdma.go.jp>
- ・ 各都道府県の地域防災計画（各府県の防災計画）
<http://www.fdma.go.jp/chii kibousai/>
- ・ 防災・危機管理 e カレッジ(防災・危機管理を学ぶ)
<http://www.e-college.fdma.go.jp/>
- ・ 国土交通省 防災情報提供センター(災害の最新情報)
<http://www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho/index.html>
- ・ 同 防災情報提供センター 防災知識
<http://www.jma.go.jp/jp/bosaijoho/knowledge.html>
- ・ 気象庁（自然現象を解説）
<http://www.jma.go.jp/jma/index.html>
- ・ アジア防災センター(世界の災害情報)
http://www.adrc.or.jp/top_j.php
- ・ NTT西日本伝言ダイヤル（災害時171の使い方）
<http://www.ntt-west.co.jp/dengon>
- ・ 広域災害救急医療情報システム（災害拠点病院等の検索）
<http://www.wds.emis.or.jp/>
- ・ NPO 法人日本救助犬協会（災害救助犬のデモンストレーション）
<http://www.kinet.or.jp/kyujoken/index.html>
- ・ 防災教育チャレンジプラン（防災教育実践事例発信）
<http://www.bosai-study.net>

- ・ 社団法人日本地震学会（地震情報・ライブラリー）
<http://wwwsoc.nii.ac.jp/ssj>
- ・ NPO 法人日本災害ボランティアネットワーク（震災の教訓を発信、講師派遣）
<http://www.nvnad.or.jp/>
- ・ 日本道路交通情報センター（大規模な交通規制の概要）
<http://www.jartic.or.jp>
- ・ 日本赤十字社(応急手当を学ぶ・講師派遣)
<http://www.jrc.or.jp/>
- ・ 神戸新聞社（阪神・淡路大震災関連情報）
<http://www.kobe-np.co.jp/sinsai/index.html>
- ・ NHK ボランティアネット（ボランティア情報）
<http://www.nhk.or.jp/nhkvnet/top.html>
- ・ 法令・告示・判例・例規等の検索(防災関連法令等の検索)
<http://www.lawdata.org/>

防災教育に活用できる施設等

- ・ 人と防災未来センター（体験・展示・語り部）078-262-5050
<http://www.dri.ne.jp/>
- ・ 神戸市教育委員会震災学習交流センター（語り部）
078-360-3451
- ・ 兵庫県広域防災センター（体験・展示）0794-87-2928
<http://www.fire-ac-hyogo.jp/>
- ・ 兵庫県こころのケアセンター（心のケアに関する研修講座）
078-200-3010
- ・ 加古川市防災センター（体験・展示） 079-423-0119
<http://www.city.kakogawa.hyogo.jp/index.cfm/6,0,79,743,html>
- ・ 宍粟防災センター（体験・展示） 0790 - 63-2000
<http://www.city.shiso.lg.jp/shisei/shisetsu/bosaisenta>
- ・ 北淡震災記念公園（体験・展示・語り部） 0799-82-3020
<http://www.nojima-danso.co.jp>
- ・ 震災モニュメント（記念碑）
<http://www1.plala.or.jp/monument/home.html>

ボランティア団体

兵庫県社会福祉協議会 0 7 8 - 2 4 2 - 4 6 3 3
 ひょうごボランタリープラザ 0 7 8 - 2 4 2 - 4 6 3 7

震災・学校支援チーム(EARTH)訓練・研修会プログラム

第1回訓練・研修会	必修 (毎年実施)	【実践発表】			
		【復興支援派遣実践発表】 ・復興支援派遣者としての心得、助言の方法を学び、災害時に派遣された時に指導助言ができるよう実践力を高める講師としての心得、講義方法を学び、県内及び他府県等の防災教育研修会に講師として発表、指導助言ができる力を身につける 【講師派遣実践発表】 ・講師としての心得、講義方法を学び、県内及び他府県等の防災教育研修会に講師として発表、指導助言ができる力を身につける			
		導入	防災体制	防災教育	心のケア
		【講義・協議】 EARTH員の責務	【班別演習】 災害派遣シミュレーション	【講義・協議】 震災の教訓の語り継ぎ	【演習】 被災児童生徒等の心のケア
	EARTH員の活動内容、必要とする力、各班の役割等について理解する	被災した学校に派遣されたときに対応できる力を身につける	・阪神・淡路大震災時についてEARTH員が語ることで他のEARTH員に震災の教訓を語り継ぐ ・阪神・淡路大震災を経験したEARTH員と経験していないEARTH員が語ることで震災の教訓を語り継ぐ方法や内容、今後の活動について共通理解する	被災児童生徒の心の状況を理解し、心のケア、リラクゼーション、呼吸法等の対応方法の指導ができる	
年度別選択 (3年周期で実施)		【演習】 各学校での防災教育活動	【演習】 防災教材の活用(防災授業)	【講義・協議】 ボランティア	
		・各EARTH員が蓄積してきた防災教育の実践内容を共有化し今後の実践に生かす ・EARTH員が県内及び他府県等の防災教育研修会の講師としての力を身につける ・各学校で兵庫の防災教育の推進に努める	・県内及び県外での兵庫の防災教育を推進するために防災教材の活用、開発する力を養う ・防災教育を行う際の、技術的な課題解決方法だけではなく、その理念、教育への位置づけ、市民生活への位置づけ、などを総合的に理解する(教材の工夫)	ボランティア活動に参加した学生等の発表を聴き、ボランティアに参加するときの最低限の知識、子どもたちにボランティアの大切さを教える時の基本的な考え方を理解する。 ボランティアの専門家による講義を聴き、ボランティアの受け入れ、要請、調整方法を理解する	
		【講義】 防災教育とは何か	【講義】 自然災害の特性や対応	【班別協議】 講師実践活動	
		防災教育を行う際の技術的な課題解決方法だけではなく、その理念、教育への位置づけ、市民生活への位置づけ、などを総合的に理解する(専門家による講義)	・自然災害の発生メカニズムを理解するとともに地域の災害特性に応じた各地域の防災体制の整備・充実について積極的に協力する力を身につける ・各学校で兵庫の防災教育の推進をする方法を理解する	第2回訓練・研修会などで実践する各班の講義資料の作成を通じて、第2回訓練・研修会の準備をするとともに、活動内容を正しく伝えることができるように実践力を高める	

第2回訓練・研修会	班別必修 (毎年実施)	【演習】 避難所運営班	【演習】 学校教育班	【演習】 学校給食班	【演習】 心のケア班	【訓練】 災害派遣シミュレーション
		避難所運営上の留意事項を伝えることができる	(訓練への参加者に応じて設定)	災害時の食の支援方法についての指導ができる	被災児童生徒へリラクゼーション、呼吸法等の指導ができる	第1回訓練・研修会の災害派遣シミュレーションを総合防災訓練で実践することで、実際の災害派遣時に対応する力を身につける
			学校の早期再開のためのプログラムとプロセスを伝えることができる(教職員対象)			
			震災の概要を伝え、防災意識を高めることができる(児童生徒対象)			
		参加者に阪神・淡路大震災の概要を伝え、対応策を伝える(参加者対象)				

第1回 EARTH 訓練・研修会（各学校での防災教育活動）

所要時間	110分	人数	8～12人×10～12班 (校種ごと、職種ごとの班)	場所	教室
ねらい	EARTH 員が各学校で兵庫の防災教育を推進する力を養い、県内及び他府県等の防災教育研修会の講師として指導・助言を行う力を高める。				
研修内容	各 EARTH 員の実践を共有し、それを生かして、各学校で防災教育を推進するための方法を協議する。				
準備物	パソコン、教材提示装置、スクリーン				
受講者持参物	<ul style="list-style-type: none"> ・ EARTH 員各自の実践のまとめ ・ 防災教育副読本「明日に生きる」（兵庫県教育委員会） (http://www.hyogo-c.ed.jp/~kikaku-bo/asuniikiru/index.html) 				

	内 容	活 動	備考〔学習単位〕
導 入 (10)	本時のねらいを知る。	防災教育副読本「明日に生きる」編集のねらいやそれぞれの教材に込められた思いを、その背景となる震災当時の状況とともに理解する。	〔全体〕
展 開 1 (10)	実践を共有する。	班別（校種、職種）に分かれ、各自の実践を報告し合う。	〔班別〕
展 開 2 (50)	指導案を作成する。	各 EARTH 員の実践に学びながら指導案を作成する。 「養護教諭」「栄養教諭」「事務職」は、点検項目やチェックリストの作成など災害時の学校ですべきことを検討してもよい。	〔全体〕 対象学年等を想定し、発問や児童生徒の活動などを具体的に記述する。
ま と め (40)	発表とまとめ	各班で作成した指導案等を提示し、各班代表者が工夫した点や指導上の留意点について説明する。	〔全体〕 各班が作成した指導案を各学校での実践に活用する。

ワークシート〔各学校での防災教育〕

防災学習指導案〔 〕班

1 題 材

2 日 時

3 場 所

4 対象者

5 ねらい

6 準備物

7 指導案（略案）

	児童生徒の活動	指導上の留意点	備考
導 入			
展 開			
ま と め			

第1回 EARTH 訓練・研修会（講師実践活動）					
所要時間	110分	人数	8～12人×10～12班	場所	教室
ねらい	第2回 EARTH 訓練・研修会の企画・準備を通して EARTH 員の主体性を培いスキルアップの効果を高める。				
研修内容	第2回 EARTH 訓練・研修会で教職員、児童生徒、地域住民等の対象に実施する授業や講義、実習の資料等を作成し、講師としての指導・助言の模擬演習を行う。				
準備物	模造紙、画用紙、マジック（6色）				
受講者持参物	防災教育実践例、EARTH ハンドブック（兵庫県教育委員会） （ http://www.hyogo-c.ed.jp/~kikaku-bo/EARTHhandbook/ ）				

	内容	活動	備考〔学習単位〕
導入 (10)	本時のねらいを知る。	EARTH 員が活動事例を共有することや訓練・研修会を通して活動内容を発信することの重要性や意義を知る。	〔全体〕
展開 1 (30)	防災教育の実践を共有する。	各自の防災教育に関する指導案や実践事例を発表する。 防災の授業のアイデアを出し合う。	〔班別〕
展開 2 (40)	活動内容紹介プレゼンを作成し、演習する。	第2回訓練・研修会で実施する、EARTH の活動内容紹介の資料を作成する。 EARTH の活動内容の説明の模擬演習を行う。	〔全体〕 模造紙または画用紙を使う。 わかりやすい説明になっているか班内で評価し、よりよいものにする。 活動内容紹介は各班10分程度とする。
まとめ (20)	第2回訓練・研修会の内容等について共通理解する。	各班で作成した活動内容紹介（模造紙等）を提示し、各班代表者が説明を行う。 工夫した点、留意すべき点等について意見交換を行う。	〔全体〕

第1回 EARTH 訓練・研修会(災害時の対応シミュレーション 学校給食班)

所要時間	120分	人数	5～6人×5班	場所	教室
ねらい	被災地の学校支援のために派遣された際に対応できる実践力を身につける。				
研修内容	災害時に被災地の学校に派遣された際に、食の支援について、阪神・淡路大震災の経験や教訓を生かし、指導・助言ができるよう模擬演習を行う。				
準備物	画用紙、マジック(6色)				
受講者持参物	EARTHハンドブック (http://www.hyogo-c.ed.jp/~kikaku-bo/EARTHhandbook/)				

	内 容	活 動	備 考〔学習単位〕
導 入 (10)	食の支援のポイントを確認する。	EARTHハンドブック「2.5 学校における食の支援」(p.43～p.49)を読み、要点をまとめる。	〔全体〕
展 開 1 (30)	避難所での食の支援について考える。	被害が大きい場合を想定し、具体的にどのような食の支援が可能かを考える。 ・緊急支援の食料の配布 ・炊き出し支援など	〔班別〕
展 開 2 (30)	学校給食再開に向けた支援を考える。	避難所の状況を具体的に想定し、学校給食再開に向けての支援について協議する。 派遣先の給食の形態に応じて、給食実施に向けた手順について協議する。 派遣時に使う資料を作成する。	〔班別〕 自校の状況を踏まえ具体的に協議する。
展 開 3 (30)	長期的な支援を考える。	避難所の状況の変化に応じた支援のあり方について協議する。 ・チェックリストの検証 ・食と健康面のアドバイス ・長期的な食糧確保の検討等	〔班別〕
ま と め (20)	まとめ	被災地の学校に派遣された場合を想定して指導・助言をシミュレーションする。	〔全体〕 各班3分 災害支援派遣時の対応手順や食の支援の内容について共通理解する。

第2回 EARTH 訓練・研修会（心のケアの授業：小学生）

所要時間	45分	人数	40人	場所	教室
ねらい	災害時のストレスやそれへの対応方法についての指導方法を身につける。				
研修内容	小学生を対象に、被災による不安感などが心身の不調をもたらすことやストレスの対応方法について学習する授業を行う。				
準備物	かばくんの気持ち（補助資料 p.70～p.75）				
受講者持参物	EARTH ハンドブック (http://www.hyogo-c.ed.jp/~kikaku-bo/EARTHhandbook/)				

	内容	活動	備考〔学習単位〕
導入 (5)	被災によるストレスやそれが心身にもたらす影響に気づかせる。	震災の映像を視聴することにより被災体験がもたらす不安感を追体験させる。	〔全体〕 阪神・淡路大震災の記録映像を見せる。
展開 1 (15)	被災体験が、心に及ぼす影響について理解させる。	紙芝居「かばくんの気持ち」を上演しながら、被災者の心の状態の変化を読み取らせる。 被災により、不安を感じることはあたりまえの変化であることを理解させる。 不安から立ち直れるのは、家族や仲間の支えであってこそであることを理解させる。	〔個人〕
展開 2 (20)	災害や不測の事態に適切に対処するためには、心を落ち着かせるセルフコントロールが必要であることを理解させる	不測の事態に直面した時に、冷静な判断が自らの命を守ることにつながることを知らせる。 心を落ち着かせる方法として、呼吸法や弛緩法が有効であることを理解させる。 ペアリラクゼーションなどの方法を体験させ、効果を実感させる。	〔個人〕 低学年の場合は親子によるストレッチ・ふれあい活動が効果的である。
まとめ (5)	まとめ	災害時の心の変化や対応方法を知ることの重要性を理解させる。	〔全体〕

平成 20・21 年度防災教育支援事業
防災教育研修プログラム事例集

平成 22 年 3 月

防災教育開発機構・兵庫県教育委員会
防災教育開発機構・事務局

人と防災未来センター事業課

0 7 8 - 2 6 2 - 5 0 6 8

兵庫県教育委員会事務局教育企画課

0 7 8 - 3 4 1 - 7 7 1 1